



# ŌMIYA NEWS



No.3 2021年7月4日 JR東労組大宮地本

JR東労組大宮地本  
第22回定期大会

大会宣言を読み合わせしよう！

## 大会宣言

本日JR東労組大宮地本は、さいたま市民会館おおみやにおいて第22回定期大会を開催した。未だ新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えない中、昨年に引き続き規模を縮小しての開催となったが、厳しい情勢下でも組合員の声を基にしたたたかひの成果と課題を共有化し、職場からの実践により組織強化・拡大を推し進める運動方針を満場一致で確認した。

21春闘は、要求から大きくかけ離れた「ベア0」「昇給係数2」で妥結した。大宮地本は当初の「コロナ禍だから」「赤字だから」という諦め感から敗北に至った事を総括し、組合員の生活を守るため夏季手当の要求に繋げた。職場からは21春闘敗北の教訓を活かし、要求根拠を明確にし、要求するのは当たり前である事を組合員と一致した。結果「2.0ヶ月」という回答となったが、「これでは生活できない」「削られた定昇分を取り戻す」と言った組合員の怒りを共有化し「緊急再申し入れ」のたたかひを創り出す事が出来た。これからも組合員が安心して働ける職場環境を構築していく。

この間、各職場で組織の未来に対する危機感を共有させ、組織強化・拡大の必要性を議論し「私にとってのJR東労組」を明確にし、たたかひを推し進めてきた。対象者と関係を深め、職場の仲間全体で相手と真摯に向き合ってきた。「会社施策が打ち出される中で危機感を持った」「組合に入らなければ雇用が守られないと改めて感じた」「組合員の意見を聞く東労組になった」と本音が語られた。この様に「新生JR東労組運動宣言」の実践を積み重ね、第21回定期大会以降10名の組織拡大を実現し、着実に組織の強化・拡大に繋がっている。これからも全組合員で雇用と利益を守り抜く組織を創り出す。

しかし依然として会社による不当労働行為が続いている。職場において実態調査を行い、会社による理不尽な行為に対し組合員だけでなく未加入者が怒りや疑問を持つことで、申18号「JR東労組への支配介入・組合員への差別とハラスメント行為を是正し、安全で安心して働くことができる職場を求める」申し入れに繋げてきた。最初は「相談してくれた若手に迷惑がかかる」とたたかう事に躊躇しながらも、議論を通じ「このような事象を許してしまえばどのような職場になるのか」と危機感を一致させ、決意した仲間が勇気を出し不当労働行為に対する怒りを会社にぶつけてきた。交渉の中では、同じ答弁を繰り返し不誠実な回答を行う会社の姿勢を明らかにしてきた。改めて東労組の必要性を実感できるたたかひを創れている。これからも組合員の利益を脅かす不当労働行為やハラスメントを絶対に許さないたたかひを職場から推し進めていく。

現在、会社は赤字決算・コロナ禍を打破するため矢継ぎ早に施策を進めようとしている。私たちは職場から黒字化に向けた取り組みを議論し、提言や実践を行ってきた。その一方、会社はさらに踏み込み「現業機関における柔軟な働き方の実現」「グループ会社における副業について」など、従来の構造を改革する大きな施策を打ち出している。経営環境の変化と施策に向き合う事は重要だが、「安全・健康・ゆとり・働きがい」や地域サービスを蔑ろにした施策では真の改善は図れない。働く者の視点で会社施策に対しより良い具体案を提言し、実現させるために職場で議論を創り出す。

大宮地本はこれからも職場運動を通じた「私にとってのJR東労組」の確立により、組合員全員が組織強化・拡大に対して「当事者意識」を持ち実践していく。私たちの組織と職場の未来を一人ひとりが切り拓こう！

以上宣言する。

2021年7月3日  
東日本旅客鉄道労働組合  
大宮地方本部  
第22回定期大会